

請 願 文 書 表	
受理年月日 及び番号	令和4年8月31日 第30号
件 名	小学校で「ゲノム編集の野菜」を栽培させない、 食べさせないことを求める請願
請 願 者	<div style="background-color: black; width: 200px; height: 15px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="background-color: black; width: 150px; height: 15px; margin-bottom: 5px; margin-left: 50px;"></div> <div style="background-color: black; width: 250px; height: 15px; margin-left: 100px;"></div>
紹介議員	沢 田 けいじ 小 林 れい子
請願の要旨	次頁のとおり
付託委員会	文教委員会

請願理由

2020年、ゲノム編集食品として初めて国内で栽培や販売が認められた作物が「高ギャバトマト」です。商品名は「シシリアンルージュハイギャバ」といい、サナテックシード社が開発し、パイオニアエコサイエンス社が販売しています。その2社が、ゲノム編集トマトの苗を2022年には福祉施設で、2023年には小学校で無償配布する計画があります。文京区にも配布される可能性があります。ゲノム編集食品は、動物に食べさせて安全性を確認する実験が行われていません。そのような食品を栽培させ食べさせることは大変な問題です。

ゲノム編集とは、特定の遺伝子を壊し、品種の改良を行う技術のことです。ゲノム編集では、目的以外の遺伝子を破壊する「オフターゲット」と呼ばれる現象が起きる可能性が指摘されています。目的以外の遺伝子が破壊されると、予想外の毒性やアレルギーを引き起こす可能性があります。また、ゲノム編集には「抗生物質耐性遺伝子」が挿入されます。

「抗生物質耐性遺伝子」が削除されずに体内に取り込まれると、抗生物質耐性菌が出現し、細菌が感染しても抗生物質が効かない体になる恐れがあります。また最近の研究では、目的とする遺伝子を破壊した「オンターゲット」の場合でも、「染色体損傷」や「染色体破砕」が起きるケースが報告されています。

ゲノム編集は新しい技術にもかかわらず、ゲノム編集食品を動物に食べさせて安全性を確認する実験がされていません。「遺伝子組み換え食品」も1996年に流通が始まった際には、食の安全に関する動物実験が行われていませんでした。2000年に入ると徐々に動物実験が行われるようになり、2010年代に入ってやっと評価できるようになりました。その結果を受けて、アメリカ環境医学会は、「これまで行われた多くの動物実験が、遺伝子組み換え食品と健康被害との間に強い関連性を示している」と声明を出しています。今後ゲノム編集でも、動物実験を重ねて評価が進むと、未知の問題が判明する可能性があるのです。

北海道の179の自治体に「ゲノム編集トマトの受け取り」について回答を求めたところ、「受け取る」と回答した自治体はゼロという結果でした（回答率75%）。「受け取らない」と表明した自治体は3割で、理由の多くが、「安全性が確認されていないため」でした。文京区でも予防原則の立場に立ち、ゲノム編集トマトの苗は受け取らず、栽培させない、食べさせないで下さい。

以上のような観点から、文京区議会に対して下記の事項を請願いたします。

請願事項

- 1 動物に食べさせての安全評価がされておらず、目的以外の遺伝子の破壊により予想外の毒性やアレルギーを引き起こす可能性がある「ゲノム編集食品（上記のトマト含む）」は、文京区の小学校で子ども達に栽培させない、食べさせないよう区に求めること。
- 2 「ゲノム編集食品」の安全性の調査・研究を独自に行い、安全性が確認されるまで、「ゲノム編集食品」は、加工品を含め、学校給食に使用しないよう区に求めること。
- 3 「ゲノム編集食品」は食品表示がなく、知らずに購入してしまう恐れがあるので、「ゲノム編集食品」の表示を種苗・作物・食品にするよう国に求めること。